

静岡県の地質をめぐって
静岡県産のアンモナイト
横山謙二

化石の代表として、誰もが知っているアンモナイトですが、アンモナイトが静岡県から産することは、あまり知られていないのではないのでしょうか。

県内からのアンモナイトの産出は、浜松市引佐町伊平に分布する伊平層より白亜紀前期のシヤステクリオセラス *Shasticroceras*、天竜区水窪に分布する水窪層より同じく白亜紀前期のモルトニセラス *Mortoniceras*、また天竜川左岸に分布する光明層群より白亜紀末期のハウエリセラス *Hauericeras* などの報告があります。これらのアンモナイトの報告は数が少なく、その化石も小さく、保存状態が悪いため、あまり多くのアンモナイトが産出しないものと私は思い込んでいました。

ところが、NPO 自然博ネット会員の宮澤市郎氏は、水窪層より多くのアンモナイトを発見しています。

図1は、宮澤氏が水窪層から採集した、こぶし程の大きさの小さなノジュールを切断したものです。その8等分したその断面には、肉眼で隔壁を確認できないほどの小さなアンモナイトが、どの断面にも確認できます(図2)。小さなノジュールですが、30個体ほどが確認できました。小さなノジュールに、これほどのアンモナイトが含まれているとは驚きです。また、さらに驚かされたのが、その保存状態です。アンモナイトの化石は、体の軟体部分が収蔵される住房部分が破損している場合が多いのですが、このノジュール内のアンモナイトは住房まで完全に残されているものが多く観察できます。

水窪層は、10 cmを超えるような大型のアンモナイトは、これまでのところ産出していませんが、小さな保存状態の良いものが豊富に含まれているのかもしれませんが。

宮澤氏は、これらの小さなアンモナイトを丁寧にクリーニングをし、分類が可能な状態にしています。これらアンモナイトの中から将来、記録的な発見もあるかもしれません。

これらのアンモナイト化石は、8/17～10/29

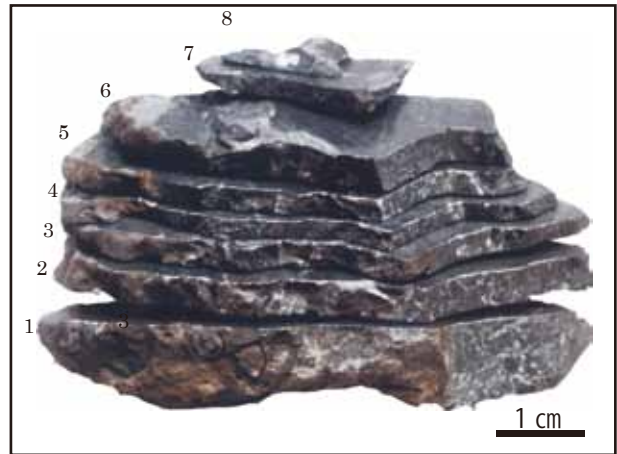


図1. 水窪層より採集したノジュールを切断したものの。

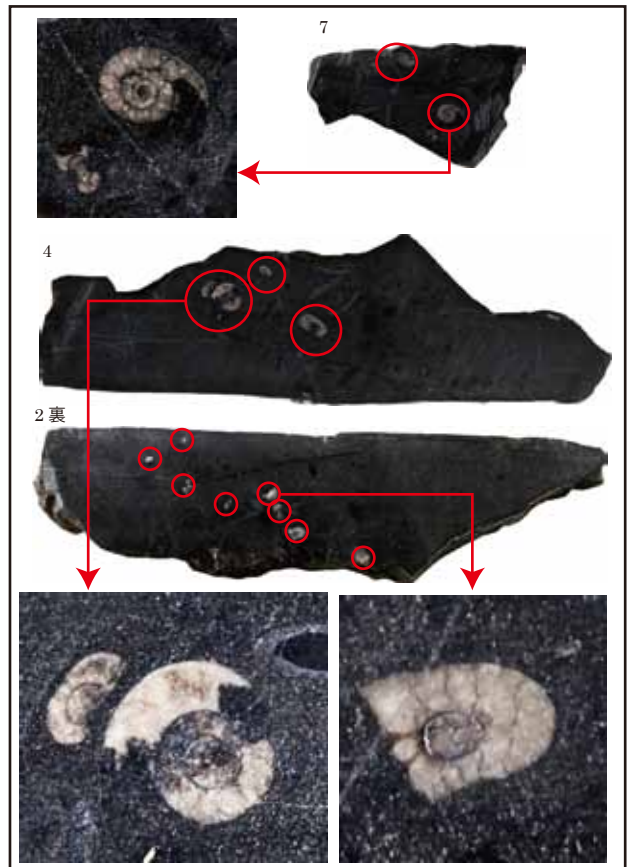


図2. ノジュールの断面で観察できたアンモナイト。円内がアンモナイト観察位置。

まで、ふじのくに地球環境史ミュージアムの企画展示室2で開催中のアンモナイト展で展示しています。